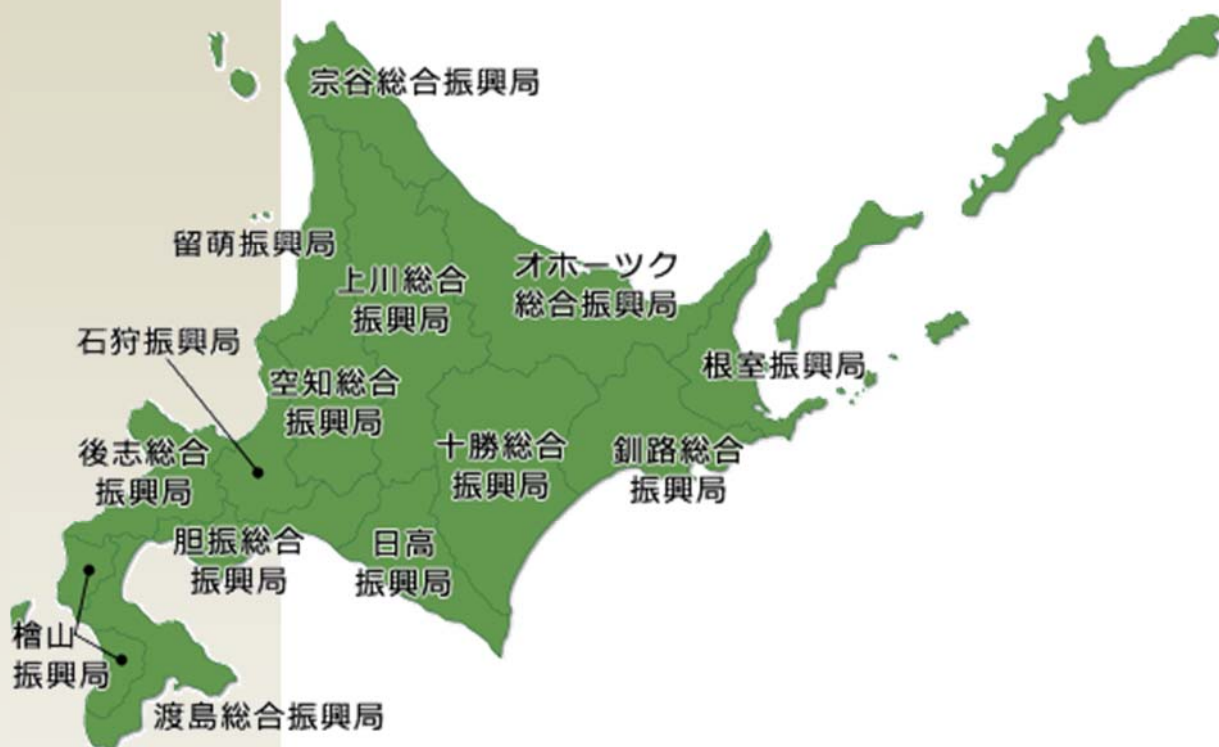




「ふるさと北海道応援寄附金」 平成27年度実績報告書



北海道

1 平成 27 年度の寄附の状況

42 件 3,170,275 円 (個人 39 件、企業 3 件)

2 寄附金の管理

皆様からいただいた寄附金は、その使い道と管理の状況を明らかにするために、北海道ふるさと寄附基金条例に基づき、「北海道ふるさと寄附基金」を設置して運用を行っております。

平成 27 年度の基金への積立て及び取崩しは次のとおりです。

平成 26 年 度	平成 27 年度				(単位：円)
	寄附金額 (B)	利子等積立額 (C)	取崩額 (D)	年度末残高 (A+B+C-D)	
年度末残高 (A)					
20,916,348	3,170,275	5,371	19,413,380	4,678,614	

3 寄附金の活用状況

皆様からお寄せいただいた寄附金は、道の各振興局が実施する「地域政策推進事業」の経費に充当しております。

地域政策推進事業は、地域の特性を活かした個性的な地域づくりや地域固有の課題への迅速かつ的確な対応など、地域に根ざした政策を進めるため、地域住民の声を取り入れながら、企画・立案から事業実施まで一貫して各振興局が取り組む仕組みとして創設されたものです。

■ 地域政策推進事業 H28 事業費計 195,000 千円

平成 28 年度に各地域で行っている事業のうち、主なものをご紹介します。

●北海道空知魅力発信事業(空知^{そらち}総合振興局)



「空知」の知名度を向上させるため、管内24市町と空知総合振興局が連携する「北海道空知地域創生協議会」が平成28年5月に設立しました。

連携する分野として、「空知」のブランド化、交流人口の増加、移住・定住対策の推進の3分野を設定し、10月に東京で行われた「ふるさと回帰フェア」といった各種イベント等への参加、管内のワイナリーや炭鉱遺産等をめぐる周遊バスツアーの実証実験などに取り組んでいます。

●いしかり元気な農村ビルドアップ事業(石狩^{いしかり}振興局)



石狩振興局では、管内農業の持続的な発展と活性化を目指し、平成27年度から本事業に取り組んでいます。

その一環として、都市と農村の交流をより一層推進するため、8月7日に札幌市の消費者を対象として生産者との交流会を開催しました。

恵庭市の農家の野菜栽培ほ場などで農作業体験を行ったほか、意見交換を行い、農家の苦労を肌で感じた参加者から、「石狩の農産物を選んで買いたい」といった意見が出るなど、農業への理解を深めていただきました。

●しりべしフードサポート事業(後志^{しりべし}総合振興局)



後志地域は、「北海道の縮図」と言われるほど、オール北海道の味覚を楽しめる土地であり、品質の高い農水産物などの一次産品や、それらを生かした多彩な加工品が生産・製造されています。

この後志地域の特産品の管外への販路拡大や、域内消費の拡大を図るため、ニセコ地域で7月に開催された国際的な自転車レースである「Niseko Classic」において、物産販売会を開催しました。

今後も、この魅力ある後志地域の特産品の販路拡大などに向けた取組を実施していきます。

●地球と人の歴史in^{いばり}いばり事業(胆振^{いばり}総合振興局)



胆振総合振興局では、世界的な価値を有する胆振三大遺産(「洞爺湖有珠山ジオパーク」「縄文遺跡群」「アイヌ古式舞踊」)に代表される地域の資源を活用し、気運醸成や誘客促進を行っています。

今年度は、縄文文化見学ツアー(9月)や、日高との小学生ジオパーク学習交流会(9月・11月)を開催した他、道内5つのジオパークを巡るスタンプラリーを実施し、道内外から多数のご応募をいただいております。関係振興局等と連携し、広域的な魅力発信を通じて交流人口の拡大を図っています。

●ひだか戦略的総合情報発信事業(日高振興局)



日高振興局では、地域資源を活用した体験観光プログラムの開発等を行い、交流人口の増加に繋がる事業を実施しております。

この事業の一環として、胆振総合振興局とともに、ユネスコ世界ジオパークのアポイ岳を有する日高地域と洞爺湖有珠山を有する胆振地域で、両地域の小学生を対象とした「ジオパーク学習交流会」を行いました。

この学習交流会を通じて、郷土への愛着や誇りの形成を図るとともに、広域的なジオパーク間のネットワークの強化を推進しました。

●みんなですすめる木づくりプロジェクト！^{おしま}(渡島総合振興局)



渡島総合振興局では、地域のデザイナーや木材業者、学生と連携して、地域にマッチしたデザインと地域材活用によるぬくもりある木質空間づくりを進めています。

スギ等を材料とした木製屋台を製作し、首都圏商業施設における屋外イベントや地元民間施設で活用しているほか、9月には、函館駅前空間の木質化をテーマとした学生対象のデザインチャレンジ(コンテスト)を開催しました。

これらの取組が評価され、このプロジェクトは「2016ウッドデザイン賞」を受賞しています。

●津軽海峡新時代！道県間の次代担い手交流・連携促進プロジェクト事業(檜山振興局)



檜山振興局では、北海道新幹線開業を契機に檜山地域と東北地域との相互交流を促進し、両地域の歴史・文化等のつながりを基軸に、人的ネットワークの構築による津軽海峡交流圏の活性化に取り組んでいます。

8月には、青森県今別町で行われた「いまべつ荒馬まつり」の会場において檜山地域の伝統芸能の披露を行うとともに、今別町住民との交流を深めました。また、10月には、青森県五所川原市の金木高等学校市浦分校に上ノ国高等学校の生徒を派遣して、若い世代の交流を深めたところです。

●上川地域づくりコミュニティ創出事業(上川総合振興局)



上川総合振興局では、多様な主体が広域的に連携した地域づくりが重要と考え、平成27年度から「かみかわ未来会議」を上川3地域(北部・中部・南部)と旭川市(上川全域を対象)で開催しております。

当会議は、地域の将来を担う市町村及び地域づくりに取り組む団体・企業等の若手が集い、地域づくりについて学ぶとともに、地域の将来や日頃の活動に関する意見・情報交換の場となっています。また、参加された多くの方々から今後の開催希望が挙がっていることから、民間企業等の方々と協力して事業の検討を進めて参ります。

●「るもい」農”フル活用推進事業(留萌振興局)



留萌地域は、道内有数の良食味米産地で、生産者の努力により「留萌管内産米」は、高い評価を受けています。更なる農業所得の安定確保を目指し、水稻の低コスト栽培技術の確立や転作作物(小麦・大豆など)の品質向上に取り組んでいます。

また、南るもいエリアのみで生産されている超強力小麦粉「RuRu Rosso」を使用したお酒やスイーツが発売されるなど、パスタ以外の新商品も次々と登場しています。今後も小麦の安定生産や多角的な販路拡大に向けて、引き続き取り組みを行っていきます。

●国境を越えた交流 海外との経済交流促進事業(宗谷総合振興局)



サハリンとの物流促進と地域経済の活性化を目指して、平成27年にサハリンに開設された「北海道センター」での商談会への参加と、サハリンのショッピングセンターで物産展を行ったほか、「国境地域」の専門家とサハリンのスーパー取締役を招き、「国境観光」の促進と貿易拡大を考えるセミナーを稚内市にて開催しました。

また、宗谷管内入込数上位の台湾人や香港人をターゲットに、宗谷の魅力を発進するパンフレットを作成し、外国人観光客へ配布を行っています。

●オホーツク若年層地域定着支援事業(オホーツク総合振興局)



左上:チェーンソー技術講習
左下:木材加工工場作業
右上:室内研修

オホーツク総合振興局では、地域の基幹産業である農林水産業における若年層新規就業者の確保・定着を目的に地域の大学と連携し新たなインターンシップ制度を創設しました。大学生がオホーツク地域の農林水産業の現場を経験することで“やりがい”や“魅力”を感じ、地域に就業することを期待しています。

本年度は、林業部門でインターンシップを実施し、山づくりから木材加工まで幅広い知識や技術を学びました。「林業を就職の選択肢の一つとしたい」など担い手に前向きな感想もありました。

●交流人口拡大に向けた食と観光推進事業(十勝総合振興局)



十勝総合振興局では、地域の食やアウトドア等の魅力を発信し、道外からの滞在型の観光客の増加につなげるための取組を実施しています。

9月15日には、東京都内において観光商談会を開催し、新たな体験観光のPRや十勝のスイーツの試食会、管内の観光事業者と首都圏の旅行代理店との商談など、関係機関が一体となった取組を行いました。

また、9月29日～10月2日には、東京・代々木公園で行われた「北海道フェアin代々木」に出展し、十勝チーズモルウォッシュ(ラクレット)の試食販売をはじめ、十勝の食・観光のPRを行いました。

●オールくしろ魅力発信事業(釧路総合振興局)



魅力発信プロモーションの様子

くしろ地域では、道東自動車道の釧路延伸を契機に交流人口を拡大し地域活性化を図るため、札幌など道央圏を主な対象にした魅力発信プロモーションを実施しています。

平成28年3月に道東自動車道が阿寒ICまで開通し、くしろ地域へのアクセスが向上しました。多くの方々にくしろ地域に来ていただくため、今後も地域の魅力を積極的に発信していきます。

●戦後70年”忘れてはいけない物語”～次世代への北方領土返還要求運動継承事業(根室振興局)



北方領土問題が発生してから70年以上の年月が経過していることから、根室管内に残されている北方領土にゆかりのある建築物、文書図画や、埋もれているエピソードなどを北方領土関連遺産として掘り起こし、「忘れてはいけない物語」として、後世に伝えることを目的に取り組んでいます。

これまでに、江戸時代末期に国後島に渡るための要所であった野付通行屋跡遺跡の見学ツアーや、元島民の皆さんがふるさとの島から持ち出した思い出の品々の展示会などを実施し、地域の方から反響をいただいております。今後も事業についての報告会などを実施する予定です。

北海道への移住相談窓口「どさんこ交流テラス」が東京にオープン！

東京交通会館に、北海道への移住相談窓口「どさんこ交流テラス」が10月オープンしました。北海道での暮らしに関心のある皆様のお越しをお待ちしております。

セミナーも多数開催！

- 「どさんこ交流テラス」では、北海道の魅力伝えるセミナーを開催！
- 特に平成29年1月から3月にかけて、「地域の魅力」「しごと」「地域おこし協力隊」など様々なテーマで開催しますので、詳しくは、[北海道の移住ポータルサイト「SHIFT LIFE 北海道」](#)をご覧ください。

北海道への移住についてのご相談

- 「ふるさと回帰支援センター」内の北海道ブースでは、専属の相談員があなたのお話を伺います。

1階にはサテライト窓口を開設！

- 交通会館1階「近畿日本ツーリスト有楽町営業所」内にサテライト窓口を設置しています。パンフレットの入手や相談などお気軽にお声掛けください。



どさんこ交流テラス

(北海道ふるさと移住定住推進センター)

場 所/東京交通会館8階(有楽町駅前)

〒100-0006 東京都千代田区

有楽町2丁目10番1号

開設時間/火曜日～日曜日 10:00～18:00

(月・祝日、夏期休暇、年末年始は休業)

お問い合わせ/TEL 090-1541-0011

E-mail/hokkaido1@furusatokaiki.net



イランカラプテ

「こんにちは」からはじめよう。

北海道では、民学官の連携の下、アイヌ語のあいさつ「イランカラプテ」（こんにちは）を北海道のおもてなしの合言葉として普及させ、多くの道民・国民のみなさまにアイヌ文化への興味・関心を抱いてもらうことを目的とする「イランカラプテ」キャンペーンを展開しています。